

宮崎県の水産業

(1) 概要

本県の海岸線延長は約400kmで、北部と南部では屈曲した海岸線となっていますが、中部は平坦な砂浜海岸が続いています。本県の海域は、沖合は北上する黒潮の影響が強く、沿岸は流入する河川水や豊後水道から南下する沿岸水と黒潮によって複雑な海況となっており、沿岸はイワシ、アジ、サバ等の好漁場となり、沖合はカツオ、マグロ等の漁場が形成されています。

○海面漁業

＜北部＞まき網、底びき網などの網漁業

＜中部＞ぱっち網、一本釣り、曳網、はえ縄、底びき網漁業

＜南部＞かつお一本釣り、まぐろはえ縄等の沖合・遠洋漁業

○海面養殖業

＜北部・南部＞ブリ、カンパチ、マダイ、シマアジ等

○水産加工業

＜県内＞イワシ、アジ、サバ、ちりめん等の塩干し、煮干し、節類の製品

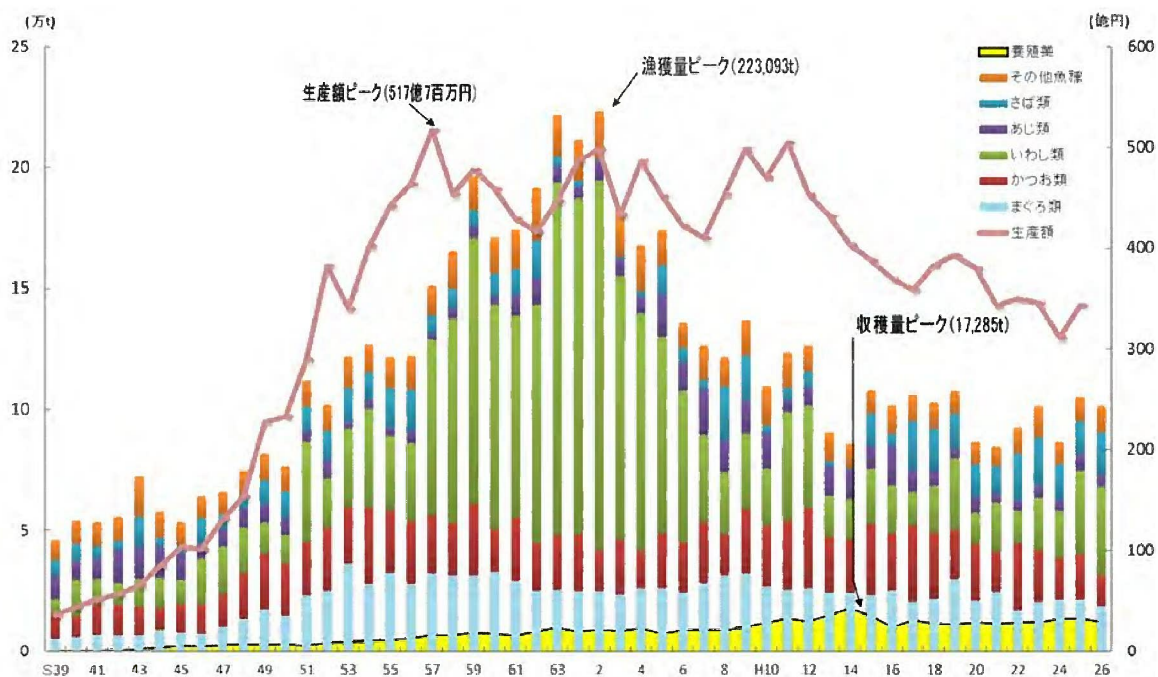
○内水面漁業

＜県内＞アユ、コイ、ウナギ等の河川漁業、内水面養殖業

(2) 生産量

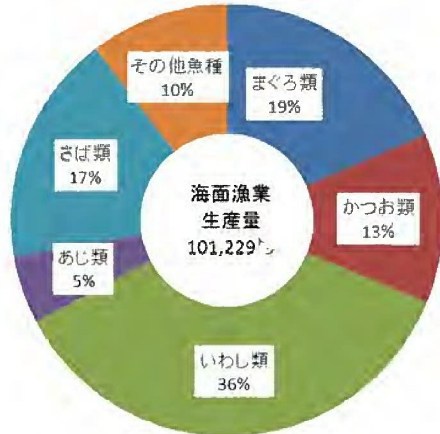
本県の養殖を含む海面漁業生産量は、平成2年の22万3千トンを経済ピークに減少し、近年はピーク時の半分程度の10万トン程度で推移しています。

生産額は、昭和57年の517億円を経済ピークに、平成12年までは450億円から500億円前後で推移していましたが、その後、魚価の低迷もあり、最近では300億円程度にまで減少しています。

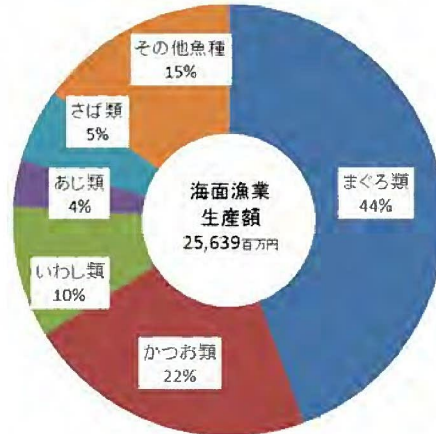


海面漁業・養殖業の生産量

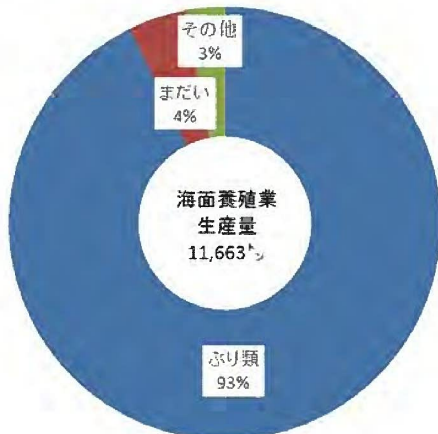
【海面漁業】魚種別生産量 単位:トン (平成26年値)



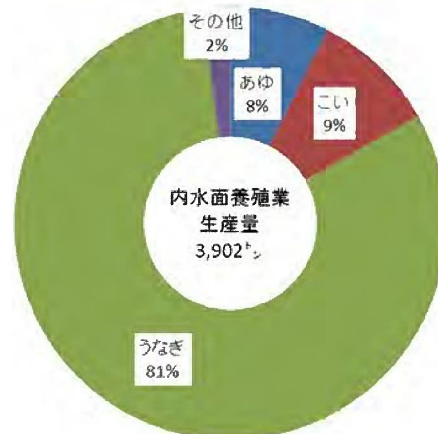
【海面漁業】魚種別生産額 単位:百万円 (平成26年値)



【海面養殖業】魚種別生産量 単位:トン (平成26年値)



【内水面養殖業】魚種別生産量 単位:トン (平成26年値)



(3) 水産業・漁村の目指す将来像

県では、水産業を取り巻く厳しい諸情勢に的確に対応し、次世代につながる水産業を構築するため、「第五次宮崎県水産業・漁村振興長期計画（後期計画）」を作成し、基本目標と目指す将来像を実現するため、3つの柱に基づく施策を実施することとしております。

基本目標： 資源回復と経営力の強化による持続可能な水産業・漁村の構築

将来像： 持続可能な水産業（儲かる水産業・漁村の構築）

【基本方向】

- ① 地域を担う漁業経営体づくり（漁村地域の経済再生）
- ② 水産資源の適切な利用管理（漁業の成長産業化）
- ③ 漁港施設等の防災対策の強化と機能保全（漁村の防災対策等）